

体験活動「哲学対話」について

1、「哲学対話」とは…

複数人で円になり、答えのないテーマについて話し合う活動です。

発言は任意のため、話すことが苦手な生徒でも参加することができます。

対話のルール

- ①何を言ってもいい。
- ②人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- ③発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
- ④お互いに問いかけるようにする。
- ⑤知識ではなく、自身の経験に即して話す。
- ⑥話がまとまらなくてもいい。
- ⑦意見が変わってもいい。
- ⑧分からなくなってもいい。

対話の進め方

- ①輪になる。
- ②話したいときには手を挙げてボールを受け取って話す。
- ③コミュニティボールを持っている人だけが話す。
- ④人が話している間でも手を挙げていい。
- ⑤他の人が手を挙げて、あわてず最後までゆっくり話す。
- ⑥話し終わったら、手を挙げている人の名から選んでボールを渡す。

哲学対話はテーマについて答えを出すものではなく、むしろ話す前よりもテーマについてわからなくなってくるものです。しかし、以前国語の授業で実施した際、参加生徒全員が「他者の意見を知ることができてテーマに対する考えが深まった」と解答していました。

教員がコーディネーターを務め、生徒の対話を整理します。発言の強制は一切せず、沈黙の時間も「思考の時間」と捉えて尊重します。

2、テーマについて

「人間と社会」の教科書のテーマを使用します。

第1回哲学対話テーマ

教科書 第2章「学ぶことの意義」…学ぶことはなぜ必要なのか？

テーマは飽くまでも話し合いの入り口であり、結論を出すことが対話の目的ではありません。対話を通して大きく脱線していくことも醍醐味の一つです。

3、活動の流れ

- (1) 哲学対話オリエンテーション【15分】
- (2) 教科書の該当の章を読んでテーマへの理解を深める【15分】
- (3) テーマについて個人の考えをまとめる【5分】
- (4) テーマについてペアで話し合う【10分】
- (5) 全体で哲学対話を実践【30分】
- (6) コーディネーター（教員）によるまとめ【15分】

全90分を予定 ※予定時間のため、現場で変更有

哲学対話 2023.8.25 テーマ「働くことの意義」

参加者：生徒 14 名 コーディネーター：村木悠

教材：人間と社会教科書 P20～23

場所：都立新宿山吹高等学校 ガイダンス室

対話時間《61 分》

※対話の記録は読みやすいよう編集しているが、現場の雰囲気や伝わるよう話し言葉のまま掲載する。

コーディネーター (村木)

哲学対話を始めましょう。折角なんで、よくある質問から始めてもいいですか？

よく「宝くじ 3 億円が当たっても働きますか？」という質問がありますよね。3 億円に限らず、一生働かずに贅沢な暮らしができるお金があったとしたら、働くか働かないか。

お金があったら働かない…3 名 / お金があっても働く…11 名

ありがとうございます。これは私の興味本位で聞きました。また後でこの話ができればと思います。

さて、もうひとつ質問をさせてください。今回のテーマは「働くこと」ですが、皆さんの中でアルバイトも含めて働いた経験があるという人、手を挙げてもらっていいですか？

働いた経験あり…9 名 / 働いた経験なし…5 名

ありがとうございます。今回は、これが視点の違いになるのかな。働いたことがある方々はその自分の経験を中心に話してもらえればと思います。反対に、働いた経験がない方々は色々と質問してみてくださいね。

さあ、それでは今回は「働くことにどんな意味があるのか」というメインテーマから始めて、どんどん深掘りしていきましょう。関係のない方向に話が逸れても全然構いません。では意見のある方、お願いします。

参加生徒

僕は「人は自分のために働く」という自論を持っています。教科書 20 ページに書いてある通り、収入を得ることってというのが 1 番になっているようで、やっぱり働くというのはその対価を得ること、そして収入をもらうってというのは、やっぱり自分のためだと思うんです。社会や他の誰かに貢献するってということもあるだろうけど、誰かに貢献するということは自分にとってマイナスではないと思うし、結局自分のためになる。そういう意味で、自分のために働くことになるんじゃないかなと僕は思います。

コーディネーター

ありがとうございます。自分のために働くんだというのが労働の基本にあるというお話をしてくれました。さあ、同意見でも別の意見でも、あ、お願いしますね。

参加生徒

私は、働くことは「ご飯を食べるため」だと思います。生きてくためにはご飯を食べなきゃいけないくて、例えば、農家で農作物を作っているけど、水・電気・ガスのライフラインを通さないと生きていけない。この資本主義社会の中でそれをするためには、お金があればそういったことと交換できます。なので、生きるため、食べるため、生活するためにお金が必要で、そのために働くんだと思います。

コーディネーター

ありがとうございます。働くことはお金を稼ぐことであり、生きるためには必要である。はい、お願いします。

参加生徒

私は数か月前にアルバイトを始めて、諸事情あって最近辞めちゃいました。それで、今よりも働いていた時の方が色々生活習慣が安定してたんです。仕事を辞めてからは、生活習慣とか精神状態とか結構狂っちゃって…。だから働くことって、自分のエネルギーのやり場みたいなものだと思うんですね。勉強とかでも別にいいんですけど、やはり人間として何か活動していないと、色々狂ってしまうのかなって思います。あと、働くことってやはり人の役に立つことなので、人から認められたりして、自分に価値が感じられたりするのかなとも思います。

コーディネーター

ありがとうございます。やるべきことが生活のリズムを作る、あと自分は人の役に立っているということを実感するために働くということですね。はい、どうぞ。

参加生徒

大きな枠組みで見たら、人は収入を得るために働く。それは前提としてあって、その先に個人差のある「どんな働き方を目標にしているか」みたいなものがあると思うんです。例えば、さっきのお話にあった生活習慣とかエネルギーのやり場としてっていう風に考える人もいれば、他にも社会的なコミュニティに属するためとか、働く意味は個人で別々だと思う。大きな括りで見たら皆収入を得るために働くんだと思うんですけど、個々人の細かなところを見ていったら、人によって働くことに対するモチベーションや考え方は異なっているので、何のために働くのかという質問について答えるのがとても難しいと思いました。

コーディネーター

ありがとうございます。そう、今回のテーマの答えは人それぞれの部分があります。でもこの哲学対話においては、「人それぞれ」のまままで終わらせないのが非常に大切なポイントです。

さて、初めに本当に大きい問いを投げかけてみました。この中で、働くことが生きるために必要だということを否定する人はいないと思います。それよりも、他にどんな付加価値をそこに認めるのか、求めるのか、ここが人それぞれだと思うのですが、おそらくこれは、みんなで意見を出し合って話し合う中で気づいていく、広がっていく、深まっていくところだと思います。今までの話の中では、生活リズムをつくるため、人から何かを認められるため。収入以外の側面ではそれらが挙がりましたが、他の観点からの働くことの意味、何か思い浮かぶ人はいませんか？ 自分の経験からでも、見聞きしたことでも結構です。お、お願いします。

参加生徒

今までのにも似てるかもしれないんですけど、養うために働くんじゃないかと思います。

1人暮らしでも自分のことは養わなきゃいけないし、家族ができたならその子供とか配偶者とかも養わなきゃいけないから。お金を稼がなきゃいけないことにもちょっと似てるんですけど。

コーディネーター

ありがとうございます。自分自身、さらには大事な人を生かしていくためにも働く必要があるということですかね。いいですね。さあ他、はい、どうぞ。

参加生徒

働くことの目的は、やっぱり第一は自分が生きるため、収入とかそういうことは皆さん今同じだと思うんですけど、働いていく段階でどのような経験を積むかも結構大事だと思うんです。例えば、学校に通って普段生活しているだけでは得られない経験ってあると思う。アルバイトをしていると、お客様への対応だったり、何か

起こった時の臨機応変な対応だったり、働くことで将来のためにそういうことを学べるんだと思います。

コーディネーター

なるほど。ありがとうございます。働くことでしか得られない経験、学びがあると。いかがですか。質問でも構いませんが、他にありませんか。(沈黙)

哲学対話では、沈黙の時間は思考の時間と捉えます。話を変えてもらっても構いませんよ。はい、どうぞ。

参加生徒

僕は7月ぐらいから飲食店でアルバイトを始めたんですけど、料理経験が完全にな状態から飛び込んでみたんです。そうしたら、本当にゼロの状態でも先輩が色々教えてくれたりサポートしてくれたりして、その中で「あ、この仕事楽しいな」って、色々と見つける機会になりました。今自分が持っていないゼロの能力を、イチにちょっと育て上げていくっていう意味で、アルバイトですけど働くことって有意義だなあと僕は感じました。

コーディネーター

ありがとうございます。さあ、ここまで働くということに対して有意義な意見がたくさん出てきましたが、僕からひとつ質問いいですか？

今まで挙げてくれた「働くことから得られること」って、本当に働くことでしか得られないの？みんな苦しみながら生きています。働きに働いて、その末に自ら命を絶つことだって日本ではまだまだ本当に多い。悲しいことです。働くことは素晴らしい、だけでは片付けられないような気がしませんか？どうでしょう。

参加生徒

今の質問の回答にはなっていないと思うんですけど、大前提として、私個人は働きたくないです。

それで、働きたくないからこそ、働くことってなんだろうと思って今日参加しました。働きたくないけど、いろんな事情があってお金がなかったんで、働かないとご飯すら食べられない、栄養失調で倒れちゃうような状況だったので、ずっと働いてきました。今私は、大人になって高校に入り直しているんですけど、色々状況が変わって、家族に養ってもらって面倒を見てもらって、働かずに学校に通ってます。よく、幸せには経済的自立が必要だって言われるけど、私は、自分で働いて自分でご飯食べて、さらに妹や弟の分も面倒を見るぐらい働いてた時って、経済的自立はしてたと思うけど、そういったギリギリの生活は全然幸せじゃなかった。やっぱり高校中退で世の中で必死で働くと、本当に今村木先生が言った通り、理不尽なこととかつらいこととかがたくさんある。まあ少しのやりがいとか嬉しいこともなくはないですけど、トータルで見たときに、働かなくて済むのならば、それでご飯が食べられるのならば、私は働きたくない。派遣切りにあって半年無職の経験もあるので、何かしら社会的なつながりが無い環境っていうのは、たとえ失業手当をもっているけど結構辛いことなんですけど、学校に通うとかボランティアするとかでも、働くことで得られる精神的側面のものは得られるんじゃないかと思うんです。今の質問の答えにはなっていないんですけど、私も働くことでしか得られないこととか、働く意味っていうこと、生きていくこと以外で知りたいと思って、みんなの意見聞きたいです。

コーディネーター

ありがとうございます。さあさあ、どうでしょうか。ご意見ある人いませんか。はい、お願いします。

参加生徒

僕は、まず前提としては、自分が生きていくために働くことは必要だとは思ってます。ですけど、やはり自分

のその時の心の持ちによって、できることや自分の課題っていうのは変わってくると思うんです。例えば、仕事とかで目標を見つけて、それを自分の課題にして頑張っていくっていうことでもいいんですけど、僕もメンタル的にやられてた時期があって、そういう時は、ほんとに何も手をつけられないんですよね。そういう時期は、ほんとにもう休んでいい。そこで色々いろんなことを考えて、その中で自分には何が必要なのかなっていうのを模索していく時期も必要だったし。今、働くことは必要でやらなくてはいけないみたいになってますが、その時々自分にそれが必要なのであれば働いて、その中で自分の課題を見つけていけばいい。それで、今の自分には社会の繋がりを一旦なくして自分1人で考える時間が必要だと思うなら、一回距離を置けばいいと思うんです。だから僕は、今の自分の優先事項や課題を見つけた時に、それが社会に出て働くことなのか、それとも自分の体を休ませて色々考える時期なのかっていうことを見つけることが大切だと思いました。

コーディネーター

ありがとうございます。社会の風潮として働くことが素晴らしいっていう価値観が大きいような気もしますが、実際はその時の自分に合ったような形を取ればいいということですね。なるほど。ありがとうございます。いいですね。他にもできるなら働きたくないって人がいれば、その人の意見も聞いてみたいですね。いかがでしょうか。あ、どうぞ。

参加生徒

これを言ってしまうとどうしようもないかもしれないんですけど、生きていくことができるなら働かなくてもいいんじゃないかなと思っています。最悪、食料さえあれば人間って生きていける。働くことの第一はお金のためであって、先ほど話に出た宝くじや株で稼いでお金に困らない状況なのであれば、別に働く必要はないんじゃないかと。その上でさらに働くってことに何の意義があるのかってことなんですけど…なんでしょうね？やっぱり経験とかは大きいのかな。でもそれも、働かなくても生きていくことができるならいらんんじゃないかなと思いますね。

コーディネーター

ありがとうございます。じゃあ今話に出てきたので、改めて聞きましょうか。もう1回手挙げてください。もし一生遊んで暮らせるお金が手に入った場合、働くか、働かないか。先ほどと意見を変えてもいいですよ。

お金があったら働かない…2名 / お金があっても働く…12名

お、働かないという人が減りましたね。ありがとうございます。少数派の理由、聞いてもいいですか。

参加生徒

やはり働くのはあまり楽しいことではないし、僕もどっちかという「労働クソ」って思ってる方なんで。ただ問題は、「生きるだけでいいのか？」ってことだと思うんです。ご飯を食べて遊んで暮らすっていう生活もいいけど、きつといつか飽きる。実際、僕もあまり学校に行かずにずっと家にこもってゲームしてる時期があったんですけど、最初はいいんですよね。勉強嫌だし、ずっと家にいる方が楽だし、楽しいし。ただ、だんだん飽きてきてやることもなくなっていくんです。人生長いので、今後何十年も遊んで暮らすのはきっと退屈な気がするんです。だから、自分の人生に刺激を与える手段のひとつとして、労働っていうのはあるのかなと思ってます。

コーディネーター

ありがとうございます。人生におけるひとつの刺激としての意義も、働くことにあるんじゃないか。僕らは生きていくだけでいいんだらうか。いいフレーズですね、それ。お、はい、どうぞ。

参加生徒

正直、お金あるなら働きたくないですね。働くことでしか得られないことは、多分何かはあるとは思いますが、別にお金があれば代わりは見つけられると思うから、それでいいのかなって思います。

コーディネーター

ありがとうございます。お金が溢れるぐらいある状況って、時間も自由に使えるわけですよね。社会貢献したいなと思ったら、ボランティアをすればいい。はい、お願いします。

参加生徒

最初の質問に、僕はお金があったら働かないっていう方に堂々と手を挙げていたんですけど、生活習慣とか刺激とか、皆さんの話を聞いていて考えが変わりました。僕も学校に行っていない時期があって、「行かなければならない」という自分を強制させる場所に行かなくなって、家で趣味に没頭してました。それでも最初は楽しかったけど、ある期間を過ぎたら飽きてきて、「自分の意義」とかそういうことを考えるようになってしまった。やっぱり日々習慣になっていることがないと、生きてても幸せを感じられないんじゃないかなと、今思っています。

コーディネーター

ありがとう。習慣がないと幸せは感じにくい。なるほど。お、どうぞ。

参加生徒

さっきの3億円のお話なんですけど、自分は働く方に手を挙げました。というのも、お金がある状態って多分精神的にもすごい余裕があると思うんです。お金がない状態で働いていたら、あれもこれもできないって心の余裕もなくなって、職場でも解雇されちゃったらどうしようっていう不安が尽きない。でも経済的に余裕がある状態で働いてれば、いつでも解雇していいよみたいな感じじゃないですか。きっとその精神的な余裕がパフォーマンスにも影響が出ると思うから、その余裕がある状態で働いてみたいなっていう気持ちで手を挙げました。

コーディネーター

ありがとうございます。なるほど、確かにそれはいいですね。

この流れで一回「働かなかっただらどうになってしまうのか」について考えてみましょうか。既に何人かが言ってくれていますが、お金がたくさんある状態で働かないと、どんなマイナス面、ネガティブな面がありますか？

参加生徒

お金があったら働きたくないって、まじですっごいわかるんです。僕も働きたくない派なんですけど、それでも多分、働かないとすごい暇だと思う。さらにとてつもなく孤独だとも思う。お金さえあればなんでもできるって言われちゃったら確かにそうなんだけど、でもやっぱりこうやって学校とか会社とか、何かしらに属しないと独りぼっちになってしまう。時間は大量にあるけど、ありすぎて辛いと思うんです。自分のやりたい放題やるっていうのが僕は性格的には嫌なので、自分に箔をつけるじゃないですけど、働くことで友達や知り合いは増えるかもしれないし、ある意味では有意義な時間を過ごすこともできると思う。それが働かないとなると、何もなくなってしまふ。他に得られる場所があるのかな。その辺は皆さんにお聞きしたいんですけど。

コーディネーター

おー。どうでしょうか皆さん。はい。

参加生徒

まず僕の話になるんですけど、僕も学校を休んでいる時期があって、その時に友達とか優秀な子たちが部活や勉強を頑張ってるのを見て、とにかくすごい辛かったんです。自分は今止まっているのに、周りにはめちゃくちゃ頑張ってる。それを見た時に僕は「これはちょっと立ち止まってはいけない」って思った。働くとか学校に行くとか何かしていれば、追いつくかはわからないけど、この差はこれ以上広がらないだろうと考えたんです。自分の中で「足を止めたら終わりだ」って常に言い聞かせながら、僕は今生活をしているところがある。なので、働かないっていうのは自分が止まっちゃうって僕は考えてしまうんです。学校に行かないっていうのがちょっと怖いんですね。そういう恐怖もあるんですけど、社会出ても友達に胸張って会えるようにしたいなと思っているので、働いたり学校に行ったり、そういうことを頑張っていきたいなと僕は思っています。

コーディネーター

ありがとうございます。働くことで好きな自分でいられるという部分はありますよね。他どうですか。はい。

参加生徒

働いてたら何かしらの会社や組織に所属するじゃないですか。所属したら名刺とかもらえるから身分が保証できる。私も学校に行っていない時に、身分証がなかったので何かに登録するとき職業欄になんて書こうかなって迷ってしまって。その時に社会に置いてかれてる感じがしたんです。働くことは、自分は社会に所属しているっていう証明になるかな。社会的身分が明確になることで、自分の存在意義みたいなものが見えてくるんです。

私はたくさんお金があっても働かなかったら、人とのコミュニケーションするツールみたいものがなくなるとも思っています。今アルバイトをしているんですけど、そのアルバイト経験の話がなかったら関われなかった友達もいます。働くことで本来関わることがなかったであろう人たちと関われる面があると考えてます。

コーディネーター

ありがとうございます。働くことで得た経験によって繋がる人が増えていくということですね。いいですね。さあここで、実際に今社会人として働いてる人に話を聞いてみましょうか。(同席している教員Aに向かって)先生、お話伺ってよろしいですか？先生は社会人として何年目になりますか？

教員A

私は教員のまえに保育士を2年間やっていて、その後勉強しようと思って大学入っているんですね。2年で教職取って、今教員2年目です。だから経歴で言うと4年間社会人やってます。

コーディネーター

先生は十分なお金があったとしても、働きますか？

教員A

はい。お金があっても働きます。というのも、これをしたっていう自分の確固たるポリシーがもうすでにあるからなんです。まだ自分は体が動くし、自分の人生って結構苦勞してきたものがあるから、やはりそれを他の人の役に立たせることができるんじゃないかと、色々考えた結果、自分が少しでもまともな人間であるためにこの仕事をやっている。だから、別の仕事だとダメなんです。私は教員辞めたら、自分が直面しなきゃい

けない問題から逃げるようになってしまう。自分がまともでいるために教員をやっている、そういう感じですかね。

コーディネーター

いや、素晴らしい。自分がまともな人間でいるために働いている。ありがとうございます。さあ、皆さんいかがですか。質問でも構いません。はいどうぞ。

参加生徒

全然頭の中がまとまってないんですけど、皆さんの話を聞いている限り、仮に働くってことをお金が得られる労働って定義すると、働きたい働きたくないじゃなくて、やることのないっていう状態が嫌なのかなって。

コーディネーター

要するに皆暇になりたくないから働くの？ということですか。

参加生徒

いや、専業主婦とか定年退職した人たちはどうなるのかなと…。

コーディネーター

なるほど。専業主婦や定年退職した方々は、これまでの皆さん話の中では、おそらく働いていない状態、つまり無職に分類される。これ、大事な部分かもしれません。専業主婦の方だって家事や育児に従事している。定年退職された方たちだって、それまでの長い期間ずっと働いてこられた。でもそれを「無職」とラベリングして見下すような風潮が、社会の中で全くないとは言えないがします。働くことの定義を考え直した方がいいのかもしれないね。難しい話になってきました。

話がずれるかもしれませんが、私も皆さんに聞きたいことがあります。

「お金を稼ぐこと」と「働くこと」って、もしかしたら違うかもしれないという話です。

Youtuber としてお金を稼いでいる人は、皆さんの中では「労働者」にあたりますか？そう思う人、手を挙げてください。 <8人挙手> ありがとうございます。

では株の運用益で生活している人はどうでしょうか。労働者にあたりますか？ <5人挙手>

ありがとうございます。お金を稼いでいても働いていないと思う人もいるわけですね。その違いって何でしょうか？お、お願いします。

参加生徒

組織に所属しないっていうことかな。

コーディネーター

ん～どこにも所属せずフリーランスで働いている人もいるよね。はい、どうぞ。

参加生徒

youtuber は家にいるイメージが強いから働いている感じがしないんですかね。

コーディネーター

外で撮影している YouTuber もたくさんいますよ。在宅勤務だってある。難しい問題だね。あ、どうぞ。

参加生徒

他人から見て頑張ってるように見えるとか。頑張ってる稼いでいる人を「働いてる」って感じるのかもしれない。

コーディネーター

なるほど。でも頑張っているかどうかの基準は人によって違う気がしますね。でも感覚的にはわかる気がします。確かに汗水垂らして頑張っていたら、よくわからない仕事でも「労働者」って感じがするよね。どうぞ。

参加生徒

youtuber って昔はなかったじゃないですか。いつぐらいから出てきたんでしょう？

コーディネーター

2000年代後半ぐらいですかね。

参加生徒

その頃ってやっぱり誰もが youtuber を職業として認めてなかったと思うんですよ。でも、今聞くと半数以上の人が youtuber を職業と認めている。時代の変化とともに労働の意義とか定義とかが変わってきてるんじゃないかなと思います。まあ、youtube は個人でやってる人もいれば、事務所に入ったりする人もいるので、個人によって分かれるところではあるのかなと思います。

コーディネーター

ありがとうございます。時代によって働くことの意義や定義が変わっているということですね。他どうですか。

参加生徒

働いているってことに関して、僕は、一般的にその会社や事業主に雇用されているというのがひとつのボーダーラインになっているのかなって思っています。だから、youtube である程度お金を稼いでいたとしても、僕はそれを職業とは思わないんですよ。例えば某日本一 youtuber がいるじゃないですか。あの人って事務所に所属しているじゃないですか。町中とかで聞いても、恐らくほとんどの人が彼の職業を Youtuber って言うと思うんです。で、そこは多分、事務所に所属しているからなんだろうなと。会社や事務所に所属していると働いていると見なされるのかなって思いました。ある場所に所属していて、そこから収入を得ていた場合、それは職業として認められる。私は誰かに雇用されていてこの職業をしていますっていう、なんかサインみたいなものなのかな。それが働く働かないのボーダーラインになっているのかなと思います。

コーディネーター

ありがとうございます。雇用されてるかどうかポイントであると。あ、どうぞ。はい。

参加生徒

今、所属してるかどうか働いてるか働いてないかのボーダーラインということでしたけど、じゃあ働いてないと区分された人たちは、最初の方で話していた「働くことによって得られるもの」を得ることができていないということですか…？

コーディネーター

ありがとう。いや、そうですよね。どんな状態の人を「労働者」と認識するかを考えていたけど、そうじゃない人たちはいっぱいいる。そこから漏れた人たちは、「働くことで得られるもの」は得られていないのか。

参加生徒

専業主婦とか退職した後の方々を「働いている」と捉えるかどうかは、本人の考え方や価値観次第だと思います。仕事を「自分にとっての課題」のように思うのであれば、多分すべての人に当てはまる。先ほど話に出た youtuber は、時代による価値観のズレがあるから認識が分かれてしまうと思うんです。でもこれが何十年とか経てば、youtuber と視聴者側の価値観がある程度一致してくるのかなって。今はまだ新しいからなのか、本人は働いてるつもりでも周囲からの認識にはズレがある。さらに何十年か経てば、そのズレも一致していくのかなと思うんです。他の新しい職業もこういった認識のズレに悩まされてると思うんですけど、今時代は大きく変わってきているので、その変化を待つしかないのではないのかなと思いました。

コーディネーター

ありがとうございます。「働く」という認識も時代によって変わる。時代の変化を待とうということですね。ここで、私からひとつ皆さんに聞きたいことがあります。数年前、たしかアメリカだったと思うのですが、ある求人広告が新聞に掲載されました。労働時間は基本 24 時間、徹夜あり、休憩はほとんどなし。非常に過酷な労働であるにも関わらず、なんと給与は 0 円！ つまり超過酷なボランティア。これだけ聞くと、誰がこんな仕事をするんだと思いますよね。でもその広告にはこうも書いてある。「既にこの仕事をしてきた先輩が数十億人いる」と。これを見た人々は皆フィクション、ジョークだと思って、中には冷やかし半分で実際に応募してオンラインの面接まで進んだ人もいました。しかしその応募者たちは、その仕事が実際に存在し、そして今現在数えきれないほどのび人々が従事している労働であることを知るのでした。実はこれ「お母さん」という職業だったんです。母の日キャンペーンとして、ある企業が CM 動画用に仕掛けたドッキリでした。ここで分かることは、家事や子育てという営みを、ほとんどの人々が「世界で一番過酷な仕事である」という認識を持っていなかったということですね。

さあ、母親でも父親でも構いませんが、家事や子育てに従事する人々を「労働者」と認める人がどのくらいいますか？ 今までの皆さんのお話に従えば、所属もしてない、お金も稼いでいないので、「働いていない」ということになる。う～ん、どうなんだろうか。もっと広く「働く」ということを考えられないかな。はい、どうぞ。

参加生徒

今までの労働の枠に、その話は当てはまるのかなって疑問に思ってます。もちろん家事や子育ては、十分ハードで、とんでもないスケジュールだとは思いますが、今まで話していた「お金を稼ぐ」というところには、当てはまらない。だから、労働とはまた別に「子育て」という枠組みを作って、それもまた大変だよなって社会がフォローしていくことが大事だと思います。政府とかも力を上げて子育て支援をしていると思うので、「労働」という枠組みでは見ないけど、でももちろん「子育て」というひとつの大きなものとして捉えていくべきものなんじゃないかなと僕は思いました。

コーディネーター

ありがとうございます。なるほど、労働とは別の枠組みで考えていく。はい、どうぞ。

参加生徒

ちょっと聞き逃してしまったので、1 回聞き直してもいいですか？ 先ほどの求人広告の条件でなんでしたっ

け？

コーディネーター

24時間働き詰めで、休憩はほとんどなし。でも賃金は0円です。

参加生徒

ありがとうございます。私はやっぱり、社会の一部となって、それでお金をもらうのが労働の基準だと思う。先ほどの youtuber も、人々に娯楽を提供して、そこに広告をつけて企業の宣伝をするっていう役割で社会の一部になっていてお金をもらってる。だから労働だと思うんです。だけど子育ては、将来社会の一部になるはずの子どもを育てているっていう点では社会の一部になってると思うんですけど、やはりお金をもらってないという点で違うんじゃないかなって思います。

コーディネーター

やはりお金がポイントになってくると。でも、社会には貢献しているんだという風を感じる。はい、どうぞ。

参加生徒

聞いていて思ったのは、「働く」ってことと「労働」って違うなということです。

なんだろう。皆さんがどういう考えで言葉を使ってるかわからないですけど、「労働」っていうのは、会社とかに所属して、社会を回すために働いてお金をもらうことだと僕は認識してます。今「働くとは何だ」ってことをずっと話してると思うんですけど、子育てをしている人は働いてないのかって言ったら、一般に見て「労働」はしていないと僕は思う。でも「働いていない」ともちょっと違う。それこそ、僕のお母さんもそうですが、多くのお母さんは、家事と子育てして、その上で賃金をもらう労働をしているわけじゃないですか。それを「働いてない」っていうのは、やっぱり違うかなって思うんです。でも、「労働」はしていないと思うんです。お金をもらっていないから。こんなこと言うと嫌な気持ちになる人もいるかもしれないけど、子育てって親の義務であって、それは労働という枠組みには当てはまらない、仕事ではないのかなと思います。

コーディネーター

ありがとうございます。話が整理されてきましたね。今お話してくれた定義を全体で共有して進めましょうか。まず、「労働」とはお金を稼ぐ営みのことである。一方、お金にはならないが何かに貢献している営み、それを「働く」と呼ぶことにしましょう。その上で「働くことの意義」って何ですかね。皆さんどうですか。

参加生徒

いや、質問の答えにはなっていないんですけど、その場合、将来役立つために学校に行って勉強している私たちは「働いてる」ってことになりますか？

コーディネーター

おー皆さん、どうですか。

参加生徒

よく「子どもは勉強するのが仕事だ」って言いますよね。それって各家庭の方針にもよりますが、私は個人的にはそうだと思ってて。みんなとだいぶ違うかもしれないんですけど、私は今学校に通って勉強してることを、自分で仕事だと思って取り組んでるんですね。たぶん多くの家庭の親が、子供に「勉強してほしい、勉強することが仕事だ」と思ってる。家で子供が一生懸命勉強したり受験勉強したりするのって、お金を稼ぐ労働

ではないけど、もう働いてるっていう風にとっていいと思います。でも会社にもブラック企業とかホワイト企業とかがあったりするように、ブラックな家庭ですごいスパルタで勉強させられて潰れちゃったり、いいご両親のもとで楽しく勉強できたり、勉強なんかしないで家の手伝いを強制させられたり、いろんな家があると思うんですけど、家庭を会社と捉えれば、子供は食べさせてもらってるから親が望むことをある程度しなきゃいけないから、勉強もある程度仕事として取り組んでるような働きなんだと思うんです。

コーディネーター

ありがとうございます。学生の勉強も「働いている」に入る。なるほど。お、どうぞ。

参加生徒

じゃあもっと範囲を広げて、幼稚園児のお絵描きとか駆けっこは「働いている」に入りますか？

コーディネーター

どうですか。はい。

参加生徒

お金を社会から直接もらう「労働」じゃなくて、「働き」っていう意味では私はイエスだと思ってます。だって、親が子供育てて絵描いたら多分嬉しいだろうから。逆に言えば、ある人が病気で寝たきりになっちゃったら、その家族はその人を働いて助けますよね。じゃあ、寝たきりの当人は何の「働き」もしてないのかって言ったらそんなことなく、家事をしてなくても何をしてなくても、生きてその場にいるだけで家族の「働き」にはなってるって考えてるんです。そういう意味では、労働、お金稼ぎじゃないけど、何で人を支えてるかとか、何で人に貢献できてるかとかっていう「働き」は、具体的な行動とか言葉だけじゃなくて、存在しているだけとか、それこそ絵を描いたりとか、子供が幼稚園行ったりとかも含めて「働き」といいいい気がします。

コーディネーター

ありがとうございます。どうぞどうぞ。はい

参加生徒

じゃあそれで言ったら、もう生まれてから死ぬまでずっと「働いてる」ってことになりますよね。

参加生徒

そうですね。よっぽど1人で山奥とかにいない限りは、他者貢献っていう意味の「働き」は、生きていたらできるんじゃないかな。ただ、人を殺したり暴力振るったりとかするのは「働き」じゃないと思います。そういうのは他者貢献じゃないので。

コーディネーター

ありがとうございます。そうすると、他者貢献に繋がるものであればそれは「働き」と考えられる。はい。

参加生徒

生きている上で全部が「働き」になってしまうという考えは、確かになって思いました。誰かや自分にとってプラスになったら、ある程度、その「労働」じゃない方の「働いている」と捉えていい。でも、例えば、僕は中学校の時に1回も学校に行かなかったんですけど、その状態は「労働」じゃない方の「働いてる」とは言えな

いなくて思ってた。だって何も生んでないじゃないですか。まあその時にしか得られない経験ももちろんありますけど、何も生まない状況だったと思うので、それは「働いている」とは思わないんです。ある程度、他者のために何かを生産するしていないと「働く」という枠に当てはまらないのかなって思います。

コーディネーター

ありがとうございます。今のお話の中にあった、学校に行かずに家にいる状態、これは「働いていない」状態ですか？ どうでしょう。

参加生徒

私は、その人にプラスになることじゃなくても、何かマイナスでもプラスでも、人とか社会に影響を与えられたらそれは「働き」のひとつになるのかなって思います。

さっき不登校の話もありましたけど、もう不登校がどんどん増えていってるじゃないですか。不登校が増えていってることによって、多分この新宿山吹高校もそういう子たちの受け皿として生まれたと思うんですよ。だから、さっき犯罪を犯したら他者貢献もしてないっていうお話がありましたけど、犯罪を犯したとしても、その犯罪を犯すまでの動機とかがあるじゃないですか。社会に影響を与えたくて犯罪を起こすみたいなの。それによってマイナスな感情もたくさん生まれたかもしれないけど、社会を変えるための刺激みたいなのが生まれるんだったら、いい方向が悪い方向かわからないけど社会が変わったら、それは「働き」になるんじゃないかな。

コーディネーター

なるほど、もう良い悪い関係なく、周囲に影響を及ぼしていればそれは「働き」になる。独りで山籠りするのは周囲に影響を与えないですもんね。そういう意味では「働く」に入らない。

参加生徒

質問です。影響っていうのは、対象はなんですか。

参加生徒

うーん、何だろう。不登校のことで言えば、その学校を運営する人たちが話し合わなきゃいけない議題になると思うんですよ。それで話し合っただけで何か起きると。あと、クラスの中に不登校の人がいて「どうしたんだろう」ってクラスメイトが考えればそれはひとつの影響になると思うし、不登校児の親も「なんで不登校になったのか」「今まで何を抱えてたんだろう」とか、そういうことを考える機会ができる。そういう影響の対象はほんといっぱいあると思いますね。

だから、影響の対象は「人」です。山奥に籠る人の話もありましたけど、その人だって生まれた時からずっと山にいるわけじゃない。その人が山奥に籠るようになった理由も影響のうちのひとつだと思いますね。

コーディネーター

ありがとうございます。広く人に影響を与えればそれは「働き」になる。お、どうぞ。

参加生徒

難しいなって思ったのは、「働く」とって言葉がちょっと合わないのかなってことです。いや、違うんですよ。なんだろうなあ。一般的に「あなたは働いていますか？」って聞いた時に捉えられている「働く」は「労働」のことですよ。で、僕たちが今「労働」じゃない方の「働く」についてを話をしている。いや、別にそれが間違

ってるとかじゃないんですよ。ただ、「働くことの意義」ってタイトルの「働く」はどこまでなのかなってちょっと今一瞬思って。「労働」の部分の働くことの意義なのか。でも広く捉えちゃうと、もうなんか生きてるだけで「働いてる」みたいなことになってるんですけど、その意義なのか。ちょっとわかんない。僕がわかってないだけで、皆さん実はわかってたりするのかな。どこまで皆さんは「働く」を捉えているのかなって思います。

コーディネーター

いい混乱ですね（笑）話しながらわからなくなってしまう。これも哲学対話の醍醐味です。ここでは「働く」ということを広く捉えても、狭く捉えても構いませんよ。いいんです。いいんです。

参加生徒

僕はここまで話で「働く」を広く定義してたのを、「学ぶ」に置き換えて聞いてましたね。僕は、学校は「働く場」よりは「学ぶ場」だと思ってて、幼稚園とかでもいろんな経験をして色々学ぶんだと思うんです。テーマの「働く」について考えた時、僕はこんがらがっちゃいそうだったので、自分の頭で言葉を変換しました。

コーディネーター

ありがとうございます。さあ、私も非常に感動しながら皆さんのお話を聞いてきましたが、そろそろ終わりの時間も近いですね。私からもひとつだけいいですか？

ある障害者施設で働く方のエッセイだったと思うのですが、そこにこんなことが書いてあったんです。施設の職員は障がいのある利用者の方々の世話をしているが、実際は職員側が施設利用者である障害を持っている方々から多くのものを与えてもらっている。障害が軽かろうが、重度で寝たきりだろうが関係ない。なぜなら、存在しているだけで自分たちの仕事のやりがいを生み出してくれているからだ。そんなお話だった気がします。

社会貢献という意味では、皆さんが考えるようなものではないかもしれない。ただ、障害者の方がいてくれることによって、その施設で働いている方々はその関わりの中でやりがいを見出したり、生きている実感を見出だしたりすることができている。他者貢献と近い意味での何かが、そこには必ずある。それを「働き」と捉えるという意味では、今日のお話に通じるなと思って聞いていました。「働く」ってということが苦痛を伴うマイナスな営みで捉えられることが多い世の中ですから、もっと優しい意味でそれを考えたら社会が少しだけ行きやすくなるのかなと思います。最後、何か言いたいことがある方いらっしゃいますか。あ、どうぞ。

参加生徒

最後の言葉でハッとさせられたのが、前回学ぶことの意義について話したじゃないですか。個人的にああこれかもなって思ったのは、自分に影響を及ぼすことが「学ぶ」ってことで、他者に影響を及ぼすのが「働く」ってことなのかなって。今回皆さんが話してたこととちょっとずれてしまうんですけども、僕はそう解釈しました。

コーディネーター

おーありがとうございます。綺麗に収まりそうなので、この辺で終わらしましょうか。お、いいですよ、どうぞ。

参加生徒

僕は「働く」って言葉を別の言葉に置き換えられないかと思ったんですけど、もう「頑張る」とかでいいんじゃない

ゃないですかね。そうすれば、今までの話とかも全部みんな「頑張ってる」で捉えたらハッピーじゃないですか。「働く」ってなんか硬い感じがしちゃうから、明るくハッピーに生きるためには全部「頑張る」にしてしまおう。みんな頑張りましょうと。

コーディネーター

「あなたは何の仕事してますか？」ではなくて「あなたは何を頑張ってますか？」と聞けばそれでいいと。

参加生徒

そう、それなんですよ。それでいいと思います。

コーディネーター

なるほど。ありがとうございました。じゃあ、この辺で終わりにしましょう。ありがとうございました。

哲学対話を終えて (回答11名)

質問1 「活動は楽しかったですか？」

①とても！…8名 ②まあまあ…3名 ③あまり／④全然…0名

質問2 「活動はあなたにとって学びになりましたか？」

①とても！…6名 ②まあまあ…5名 ③あまり／④全然…0名

質問3 「もう一度やりたいと思いますか？」

①やりたい！…7名 ②どちらかと言えばやりたい…4名 ③どちらかと言えばやりたくない／④やりたくない…0名

質問4 自由感想 (一部編集)

- ・働くことについてのイメージ、社会のイメージが少し変わった。
- ・働くの意味について深く思考できた。
- ・労働の定義、働くとはについて考えさせられた。特に子育て、主婦に関しては日本の悪い風潮が出ているのかもと思った。
- ・正直的外れな事も言ってしまったが、最後に働く事を頑張る事とまとめたのが面白かった。
- ・意見を交換し、考えを深めていくのが楽しかった。最初のテーマとは少しズレたような気もしたがそれはそれで面白いと思った。
- ・楽しすぎる。暴走しかけた(私が)。時間が短い。もっとやりたい。
- ・前回の「学ぶことの意義」に通じる部分もあって、かなり楽しかった。人間との会話楽しー！
- ・色々な意見があるんだなと感じた。
- ・「働く」という言葉の意味するものの範囲が広がっていくのが興味深かった。
- ・仕事やアルバイトの経験がある人が多かったからか、説得力のある意見がたくさんあると感じました。

・隣の席の生徒からの「ただ生きるだけでいいのか？」という発言に考えさせられ、面白かった。それは「労働しなくても生きていけるお金があったとしても、ずっと遊んでいたら飽きるだろうし、ただ生きているだけでいいのか？と思う」という内容だったと思う。確かにずっと遊んでいたら飽きるように、私は今は学校に通い、勉強していて、できなかったことができる毎日が楽しいけれど、このままずっとインプットをし続けたとしたら、それだけで満足できるのか？と思った。生産性が低いものは手応えや充実感が得にくい面があると思う。今回は『労働(お金を稼ぐ)』と『働く(金銭を伴わない)』が分けて考えられたが、『労働』は給料という見返りや、職業(肩書き)といった社会的地位が得られるので、手っ取り早く評価、社会性、やりがい、承認欲求や繋がりを感じやすく、ある意味『労働』は精神的に便利な面もあると思った。その点、専業主婦や育児、子供にとっての勉強やただ存在するだけでも起こる他者貢献など『働く』(直接金銭を稼ぐ訳ではない働き)の場合は、わかりやすく単純な対価がないので、本人も自己肯定感や満足感を得るのが難しい面があるかもしれない。しかし、生産性が高いことには価値があり、(もっと言えば生産性がより高い方が価値がある、給料がより高い方がさらに価値がある)、生産性が低いことには価値がない、稼ぐ金額が少ないほど劣っていて、1円も稼いでいないなら無価値である、といった訳がない。『労働』=お金を稼ぐことは、必要だからすること、やりたいからすることであって、やらなければいけないことではないと思う。税金をより多く納めていれば偉くて、生活保護をもらっていたらダメ人間なのか？そして、お金を稼いでいなくても、働いている人もいる。学びも働くことも、学歴や職業や収入など評価は関係ない。「人から評価されない、人を評価しない」を心に決めて、自分自身の人生を生きていきたいと思った。「生きているだけでいいのか」の発言によっていろいろ考えさせられた。ただ、私は「生きているだけでいい」と肯定したい。自分自身にも他者に対しても。もし自分が労働する立場であってもそうでなくても。